

2009年2月14日 講義1

講義タイトル： The Last 50 years of Ethiopian History

講師：Tekalign Wolde Mariam (アジスアベバ大学)

キーワード：History, ethnic, Ethiopia, Modernization, Amharanization (アムハラ化)

#### 要約

1つの国の歴史を語る際、その歴史を何と呼ぶか、また何に強調をおいて語るかにより、その歴史の様々な理解が可能になる。ここ50年のエチオピアの歴史は一般に、帝政や戦争、植民地統治、ハイレセラシエによる支配、軍事クーデターと帝政の崩壊、社会主義時代とその後の現政権EPRDF(エチオピア人民革命民主戦線)への転換など、政治的に重要な事件や政治体制を基本に理解されている。今回の講義では、Imperial(帝国主義者)、Liberal(自由主義者)、Marxist(マルクス主義者)、Ethno-Nationalist(民族主義者)という主な4者の解釈で話を進めることにする。これら4者が権力をもった時代それぞれの境目を明確に見出すことはできない。まず長い帝政期に、国家が統一され、イタリアからの独立が達成された。この時期に、近代化とエチオピア文化の保存が同時平行でおこなわれ、ハイレセラシエの統治やエリトリアとの内戦はエチオピアを特殊な地位にした。自由主義的な時代にはさらに重点的に推し進められる近代化と伝統文化の衝突、独裁が生み出す問題、植民地化への激しい抵抗などが見られる。近代化を恐れる農村地域の反発で中央集権化はうまくゆかず、近代化を達成できなかったことで長く続いた帝政は崩壊することとなる。その後の軍事政権では行き過ぎた中央集権化と暴力が反感をまねくこととなった。エチオピアはもともと封建制であったため、資本主義の侵入を止められなかった。しかし、資本家と労働者の階級間よりもむしろ、大干魃による深刻な飢餓など国内の苦悩にさいなまれた。その後、キリスト教化とアムハラ化が進むことによって南北がまとまっていくが、民族間の対立も深まることになった。

(報告者：野口真理子)